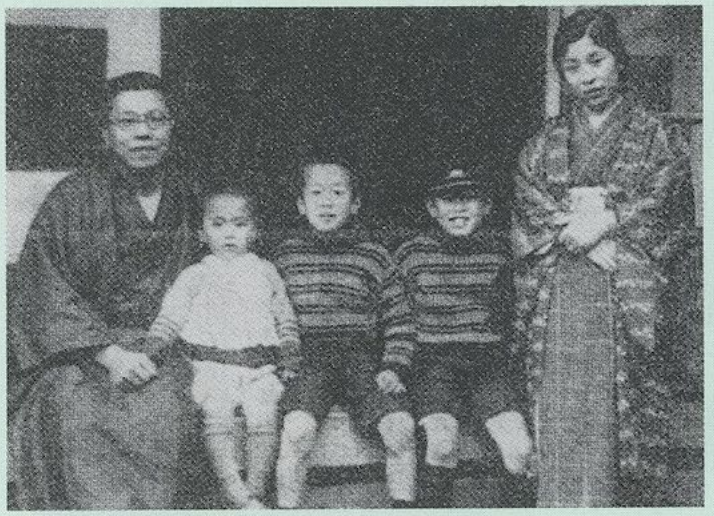
津田左右吉物語⑦

日信（津田左右吉全集第27巻）

左右吉は大正14年から２年半にわたって鈴木拾五郎、佰子夫妻へ『日信』という便りを送り続けました。その中身は個人的なものはほとんどなく、左右吉が研究に疲れたとき、文芸について自分自身の理屈などを加えて作った随筆集的なものです。

佰子さんは結婚以前、津田家に同居していました。子どものなかった左右吉にとって、鈴木夫妻は実の子どものようなものでした。『日信』の最初のころには「じつとしてゐると、たまらなくお二人に会いたくなつて来た」と書いてあり、鈴木夫妻に対する温かな思いやりの気持ちが伝わってきます。



◀鈴木家